

(別紙2)

自己評価及び外部評価結果

作成日

令和3年 3 月 5 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791900117		
法人名	医療生協かわち野生活協同組合		
事業所名	グループホーム さんがの杜		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府大東市三箇5丁目6番22号		
自己評価作成日	令和2年12月4日	評価結果市町村受理日	令和3年3月5日

【事業所基本情報】

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2791900117-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人エイジコンサーン・ジャパン		
所在地	大阪府大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルITM棟9階		
訪問調査日	令和3年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの時間のペースにできるだけ合わせながら、その人らしく、自由に過ごしていただけるようにしている。食事はできる限り、温かく、本人の食べやすい形態で提供し、美味しいと満足頂けている。季節ごとに行事を行い、コロナウイルスがなければ、散歩などもできていたが、現在できていないので、中庭で外気浴など行っている。、グループホームということで、その人が生活してきた、馴染みのものを、部屋に置くなど、日常生活の延長上にある施設としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

医療生協を経営母体としているため、協力医療機関の医師の往診は2週間に1回であり、看護師が毎日訪問する等医療面での支援体制が確立され終末期にも対応している。また地域の組合員が運営推進会議や災害時の緊急連絡網に参加するなどバックアップが心強い。
職員は入居者とのコミュニケーションを大切にし、入居者が思い思いに過ごすことができるよう支援している。コロナ禍にあつて職員はマスク及びフェイスシールド着用で介護及び感染予防に日々努力されている。今は普段以上の感染予防業務が負担となっているであろうがこれまで培ってきた入居者との関係を今後も大事にして入居者の日常を守っていってほしい。

グループホーム さんがの杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「医療生協の介護」方針を基本に実践している。理念を掲示し職員全員で共有し、日々の支援に活かせるように努めている。	理念は玄関に貼り出し、職員会議時に配布したり、また名刺サイズのカードの形で職員に配布され常に確認できるようになっている。	現在は法人の理念を使用されているが、合併前のグループホームとしての理念と現在の法人理念を合わせて新しい理念の作成も考えていきたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナウイルスの影響で、外部に出ること、外部から来ていただくことが、出来ない	コロナの影響下であるが、地域の生協組合員との交流は運営推進会議を通じて継続している。自治会との交流はコロナに関係なく、今後の課題として残っている。	コロナ終息後に向けて自治会との交流が進むことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	協立診療所看護師と一緒に認知症の学習会を行っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回行う運営推進会議の中で、入所者の状況や行事、地域との交流について、助言をいただき、サービスの向上に努めている。	地域代表として近隣の組合員の方、地域包括支援センター職員が出席している。活動報告のみならず要望、助言、インシデントアクシデント報告まで多岐に亘り話し合われている。	ご家族の出席がないので、今後も出席を呼びかけ、またご家族にも議事録を送るようにして運営推進会議に対する理解を深めていってもらいたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度でわからないことや、生活保護でわからないことなど相談している	介護保険の更新や生活保護の問合せに加えて、看取りに関しては直接訪問して指導を受けている。また災害計画書も最近提出を求められ、情報交換や協力は円滑である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する指針を作成し、職員にも学習会など行い、周知徹底している。玄関はキーロックであるが、番号を見えるところに張り出している。	ベッド柵は入居者の行動を制限しない範囲で二本柵を使用し、センサーマットは2名のみ家族に説明の上で使用している。職員はスピーチロックについても理解していて、入居者の要望を待ってもらう場合等に言い方に工夫をしている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	インターネットなどでオンライン学習会など参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や後見人制度について、外部研修会等に参加し、学ぶ機会を持ち、支援に努めている。		

9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用契約書、重要事項説明書にて説明を行い、理解、納得した上で、署名、捺印をしていただいている。追加加算に関しても、家族等を通して説明している。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に、ご意見用紙を配置し、日常的に意見が出せるようにしている。また、家族様の面会時にも何か要望などないか、聞き取りしている。</p>	<p>この一年は来訪者が少なくご意見用紙の利用はなかったが、家族との連絡時に受ける意見は会議の議題にして実行している。また医療生協全体で、ご家族へのアンケートを取っており、その意見も会議で話し合い実行している。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職場会議や申し送り時など日常的に意見を出せるようにしている。各担当を持ち、役割分担を行い、意見を出している。</p>	<p>職場会議は月1回である。法人全体の会議内容の伝達及び役割分担(後方支援業務)や入居者の状態、職員からの提案について話し合い、情報は職員間で共有され実践されている。職員が意見を言いやすいよう管理者は努めている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>体力的にも精神的にも疲労感があるため、できるだけ、連勤務にならないようにしている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人企画のインターネット学習に、できる限り、職員全員取り組んでいる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>法人内の連絡会の参加や学習会への呼びかけは常時行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅訪問をして本人や家族の困り事、不安、要望を聞き取り、安心したサービスを提供し、より良い関係作りに努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至った経緯や経過を聞き、その思いをサービス計画書に活かすように努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状態を聞き取り、適切なサービスの情報を提供し、より良いサービスに繋がる関係作りに努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ひとりひとりの残存能力を活かし、共に暮らす者同士の関係を築いている。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態の変化、良かった事や新しい発見等は面会時やメールにてお知らせしている。また、行事ごとなど行った際は、お便りを出し、共に支えていく関係を築いている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常的にも家族や友人等にいつでも連絡が取れるように、支援し、時間を問わず、気軽に来訪していただけるように努めている。	コロナ影響下で現在は支援が困難なため、携帯電話でご家族と話をしてもらっている。散歩には行けないが、中庭で外気に触れてもらったり日光浴してもらうなど工夫している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の中で個人の正確や感情の変化を職員が理解し、入所者同士の関係に気を配り、支え合える関係、環境作りを心がけている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了したご家族様とも交流しており、手紙やメールをいただいている。また、いつでも来訪してくださいとお声かけしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や表情、本人のやりたい事や、いきたいところへできるだけ希望に寄り添うが、コロナの影響もあり、今年はなかなか外出が出来ていない	全介助の人には短い単語で話しかける、行動を理解しつつ話しかける等職員は入居者との意思疎通に努めている。また希望によって食事時間をずらすなどして一人ひとりの生活のペースや暮らし方を尊重するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、ケアマネ、知人などから情報を収集し、個々の生活歴を理解し、自立した生活が行えるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神面・身体面・有する能力に配慮し、ご本人のできる、できないを見つけてだし、自分自身のペースで生活出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職場会議や医療との連携、それぞれの意見を検討し、入所様への適切なケアを行えるようにしている。	通常3-6か月の介護計画の見直しで、家族には電話で通知し、郵送・押印してもらっている。医師・看護師・職場会議と緊密な連携で利用者個人にあった適切なケアを心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや経過記録等で情報を共有し、ケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応し、必要に応じて計画書の見直し、変更を行いケアしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアのレクレーションもあったが、コロナの影響で、今年は出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(協立診療所)との連携を強め、適切な医療が受けられるように支援している。	協立診療所の協力医が月2回往診し、また看護師が毎日訪問している。かかりつけ医で受診している入居者は現在1名で家族が通院介助している。かかりつけ医の診療情報は家族を通じて職員に伝達されている。	家族から聞き取った診療情報は申し送りノート等に記入して、今後も職員間の情報共有を徹底して行ってほしい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>24時間体制で体調不良や異変のある場合は、適切な指示を受けている。日常生活においても、報告、相談を適宜行っている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院の際は状態確認や、退院に向けての相談を面会や電話にて行っている。協力医療機関とも情報共有を行い、随時早期退院出来るように、連携している。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時には、重度化や終末期に対する指針の説明を行い、重度化した場合には、家族、医師、職員と共に、話し合い、方針を決定して支援する体制を作っている。</p>	<p>看取り介護が現在1名である。カンファレンスに看護師に入ってもらい、パルーンや酸素吸入もあるのでチェック表を作成、実施している。家族とは、コロナ禍とは言え、最低限の面会(5-10分)も行っている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時の対応について、内部、外部での研修を実施し、知識、技術を取得している。入所者が急変した時のために、急変時の意向書を家族様に書いていただいている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策マニュアルを作成している。消防訓練も実施し、近隣の組合員にも協力体制を築いている。</p>	<p>消防訓練は年2回行なう。1回は消防署立会いの下、近隣の組合員も参加して夜間想定訓練である。災害時の救急要請手順、緊急連絡網を貼り出し、設備点検も定期的に行なっている。災害用備蓄については準備中である。</p>	<p>水害時等の2階への階段上り介助の訓練も消防署の助言を得て行なってもらいたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者への声かけ等、本人のプライドや個人の気持ちを尊重し、常に配慮するように心がけている。入浴、排泄、更衣の際は必ず扉を閉め、プライバシーを保っている。	利用者個人にあわせた対応を心がけている。フロアで申し送りをする時は特に守秘義務の点から気を付けている。プライバシーの確保もなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら話したすきっかけ作りや、表情の変化や、動作などから、異変を読み取り、自己決定ができるべ面作りを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、各自のペース、対応や気分に対応し、臨機応変に対応し、不安感などないよう、安心して過ごしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や清潔感に配慮しながら、各自の能力に応じた支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会にはケーキや特別なお菓子作りをしたり、行事には手作りごはんを用意したりと、食を楽しんでいただけるようにしている。	1日3食ご飯と汁物は施設内で用意し、外部から届く真空パックされた副食を温めて提供する。行事食等で入居者に楽しんでもらっているが職員が入居者と共に食事を取るのには職員人数の関係で難しい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	日々の献立は専門の業者による栄養バランスのとれた食事を提供している。また、個人に合わせた食事形態にし、水分量なども、チェック表にて管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科にて口腔ケアを行っている。また、義歯の調整など個人に合わせたケアを行っている。嚥下体操など、口腔ケアについての学習の資料も頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、各自の排泄パターンや排便コントロールを行っている。	自立排泄4名、リハビリパンツ1名、おむつ2名、パルーンカテーテル2名である。日中はトイレ誘導重視、夜間は睡眠重視でおむつはスーパーサイズのパッドを使用している場合もある。朝昼晩と嚥下体操時に足の運動も取り入れて排泄自立に役立っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにヨーグルトの日を必ず取り入れたり、牛乳を提供するなど、内服薬や、内服薬以外のことで対応している。		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	行事、入浴拒否、体調不良がある時などは、無理に入浴せず、日時を変更するなどに対応している。シャワー浴や清拭なども行い、最低週2回の入浴を実施している。	基本的には週2回の入浴、看取りの人は週1回の入浴と清拭で対応している。時間は日曜日以外の午後1時から3時に個浴で、入居者の希望に沿ってできる限り同性介護としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中夜間のメリハリに留意した上で、個々の生活リズム、習慣、希望に応じた対応をすると共に、ゆったり、休息できるように、室温、照明など、環境整備にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は常に新しいものをファイルし、内服時もどんな薬を内服しているかを薬版に書いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできることに配慮しながら、負担にならない範囲で、家事や、趣味のこと、レクリエーションへの参加など、その人が安心して暮らせるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前はドライブや散歩も行っていたが、今年はコロナの影響で、受診以外外出できていない。	コロナの影響で外出支援はできていないが、中庭に面した部屋の戸を開けて外気に接したり、玄関先で体操したりと工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて家族様よりお預かりしたお金で、買い物支援している。本人がいくら持っている方は本人管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば、グループホームより家族様へ連絡し、お話ししていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔を保ち、テレビやソファ、本棚などの整理整頓、季節の作り作品などを展示し、くつろげる空間になるように、工夫している。	1階であるが、窓が大きいので朝日が入り明るい。書初め等入居者の作品を飾って季節を感じられるようにしている。毎日掃除機掛け、週1回夜間にモップ掛けを行なう。入居者に風が直接あたらない中庭に通じる窓を朝昼開けて換気にも努めている。	

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>コロナの影響で席を離しているが、気の合った方同士の会話は聞かれ、また、自室にてテレビを見て過ごされる方もおられ、自由に過ごされている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>できる限り、馴染みの物を持って来ていただいているが、収集癖があったりして、簡素な部屋もある。個人によるが、自室は皆さん覚えておられる。</p>	<p>居室ではそれぞれ自分の好みものを飾っている。掃除は各部屋週1回となるよう2-3部屋ずつ順番に行ない、各部屋毎日換気にも努めている。リネン交換も職員と一緒に週一度行う。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入所者が生活しやすいように、廊下には手すりを設置し、段差のない、バリアフリーの状態設計している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目:9,10,19)		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
		○	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
		○	
66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)		①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
		○	
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
		○	
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない
		○	